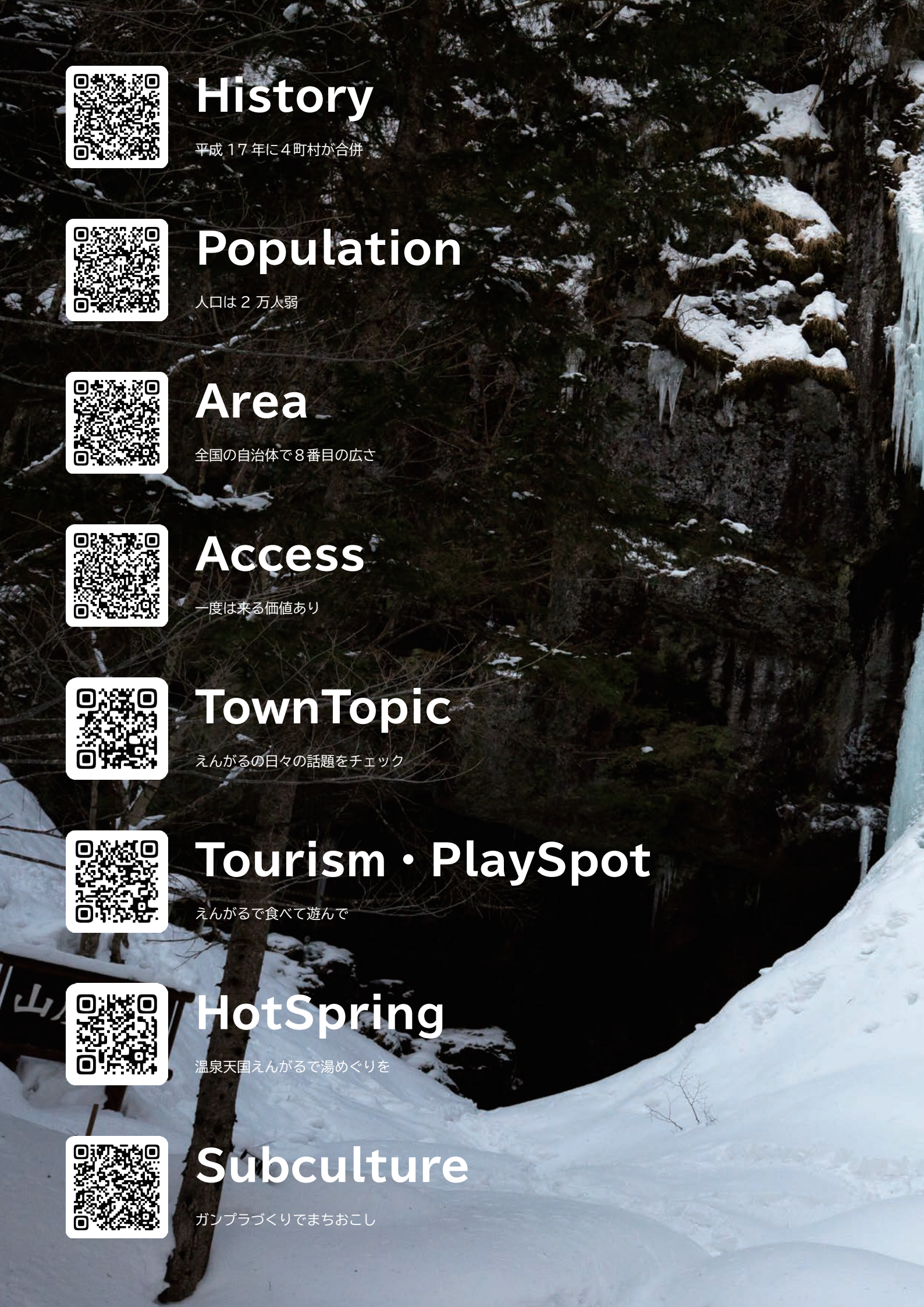
ENGARUCHO

遠軽町就農支援案内



History

平成１７年に４町村が合併

Population

人口は２万人弱

Area

全国の自治体で８番目の広さ

Access

一度は来る価値あり

TownTopic

えんがるの日々の話題をチェック

Tourism・PlaySpot

えんがるで食べて遊んで

HotSpring

温泉天国えんがるで湯めぐりを

Subculture

ガンプラづくりでまちおこし

遠軽町の新規

父の農業に
1日でも早く近づけるように

2000(H12) Farming in Shirataki
大久保農場

大久保　淳　　（1970年生、故人）
真由美（1968年生）
賢　　（2000年生）

畑作52ha（小麦、甜菜、スイートコーン、馬鈴薯、カボチャ、ズッキーニ）

北海道に憧れて平成12年4月に夫婦2人で神奈川県横須賀市から移住。3年間の研修を経て、第三者継承により新規就農した。移住後に長男と次男を授かり4人家族に。就農後は堅実な農業を実践しながら、農業体験の受入など農業振興に尽力してきた。また、夫婦そろって北海道指導農業士に認定されており、地域農業のけん引役も担う。長男の賢さんが農業大学校で2年間農業を学び、実家に戻って就農することとなった令和3年、淳さんが突然の病で急逝する。親子による農業経営で更なる発展が期待されていた矢先の出来事だったが、賢さんは「実際に就農して父の凄さを日々実感しています。目の前のことを着実にこなし1日も早く一人前になりたい」と悲しみを胸に秘めつつ、経営者としての一歩を力強く踏み出した。

地域に支えられ
トップクラスの生産者に

2006(H18)Farming in Ikutahara
柳田牧場

柳田　拓馬（1979年生）
舞美（1983年生）

酪農（経産牛50頭）

高校卒業後、町内で酪農ヘルパーに就業した。父親が町内で新規就農により酪農を営んでいた影響を受け、いずれは自分もという想いを抱いていた。そんな中、離農する酪農家の話があり、ＪＡ組合長や関係機関の後押しもあって平成18年に独立就農を果たした。就農後は、地域を代表する㈲リゲルファームの支援や獣医師等の助言を受けながら、牛の改良に重点をおいて経営。その甲斐あって、ＪＡえんゆうの農畜産物共励会において複数回受賞するなど、優良酪農家として実績を積み上げてきた。就農から１５年経った今、拓馬さんは「ゆくゆくは第三者継承で自分の経営を誰かに譲りたいと考えている。そのために設備の更新も計画的に行っていきたい。継承後には自分を育ててくれた地域にも何かしらの形で恩返しをしていきたい」と力強く語る。

就農者

人が集まる農場を実現

2012(H24) Farming in Shirataki
えづらファーム

江面　暁人（1979 年生）
陽子（1980 年生）

畑作 42ha（小麦、甜菜、スイートコーン、馬鈴薯）

「家族が一緒に過ごせる仕事を」という想いを持ち、東京での仕事を辞めて北海道に移住した。白滝地域で２年間の研修を経て第三者継承により新規就農を果たす。人が集まる農場をコンセプトに、住み込みボランティアの活用や企業研修の受入を実践。人手不足を解消するとともに、田舎暮らしや農業の良さを広く発信してきた。また、平成27年には旅館業の許可を取得し、農泊事業にも着手。現在はコロナ禍で受入の制限を余儀なくされているが、それまでは年間延べ500人を超える利用客が訪れるなど好評を博している。暁人さんは「就農当初に求めていたことはこの10年で実現できた。農業農村をもっと身近に感じてもらえるような活動を継続して行っていくとともに、次世代を担う農業者の育成にも力をいれていきたい」と飽くなき向上心を見せる。

友人と起業し営農をスタート

2021(R3) Farming in Shirataki
合同会社北大雪ファーム

杉山　大輔（1979 年生）
東郷　理　（1979 年生）

畑作 30ha（小麦、甜菜、スイートコーン、馬鈴薯）

「自然相手に地域に根差した活動をしたい」。大学時代の友人である杉山さんと東郷さんは、そんな想いを抱き、畑作での大規模経営を夢見て北海道を訪れた。インターネットで遠軽町を知り、希望する農業が行える見込みが立ったことから脱サラを決意して、令和元年６月から農業研修を開始した。新規就農者が多い白滝地域では、研修生が地域に溶け込みやすいようにと農業者有志６戸がサポートチームを構成して、実習受入などの支援が行われた。２年目から継承元での研修を経て、令和３年４月に就農を果たした。合同会社を立ち上げ２戸１法人による営農をスタートさせた２人は「多くの方々のおかげで就農することができました。今後は経営規模を拡大するだけではなく様々なことにチャレンジしていきたい」と意気込んでいる。

Agri Talk 2021

移り行く
遠軽の農業
今後の展望は

全国的に農業人口が減ってきている。
北海道の田舎では、それはより色濃く、顕著な問題である。
地域の農業を継続させていくために、日々みんなで知恵を絞っている。
昭和の時代を生き抜き、平成の時代を駆け抜け、令和の時代に挑戦し続けている町内の農業者が、これまでの遠軽町、これからの遠軽町について語る。

新国　純一　Niikuni Junichi

地域の複数戸による耕畜連携農業法人を平成３０年に立ち上げたメンバーの一人。チャレンジ精神にあふれ、確かな技術で地域の農業をけん引する。畑作･園芸農家、㈱安国コーポレートファーム構成員・設立発起人代表、遠軽町農業委員会会長、遠軽町農業担い手対策協議会委員、北海道指導農業士

石丸　博雄　Ishimaru Hiroo

地域の酪農家複数戸による協業法人を平成１０年に立ち上げたメンバーの一人。地域と会社の共生を目標に掲げ、遠軽町の農業発展に尽力している。㈲社名渕みどり牧場代表取締役、遠軽町農業担い手対策協議会会長、遠軽町農業委員会会長職務代理者、北海道指導農業士、遠軽町青少年指導員委員長

コーディネーター

石川　正徳　Ishikawa Masanori

地元出身の町職員。農業分野の業務に通算１０年以上従事し、地域の農業に精通する。ガンプラ作成をはじめ、芸術鑑賞、音楽鑑賞、カメラ、グルメ、愛車はミニクーパーなど、多彩な趣味を持つ愛妻家。遠軽町役場農政林務課主幹

昔を振り返ってみて今思うこと

石川 今回お二人に対談してもらうということなんですが、遠軽町が合併して１５年という時間が経過して、遠軽の農業を振り返ってみて思うことはないですか。

新国 農林業センサスの結果によると、遠軽は管内一農業者数が減っている。ここに限らずどこでも起きていることだが、３０年以上前からの問題で、日本の高度経済成長のときからどんどん農家人口だけは減ってきた。

石丸 以前に北大の教授の講話で、今後１戸当たりの経営面積はとんでもないことになると聞いたが、それがどんどん現実になってきている。

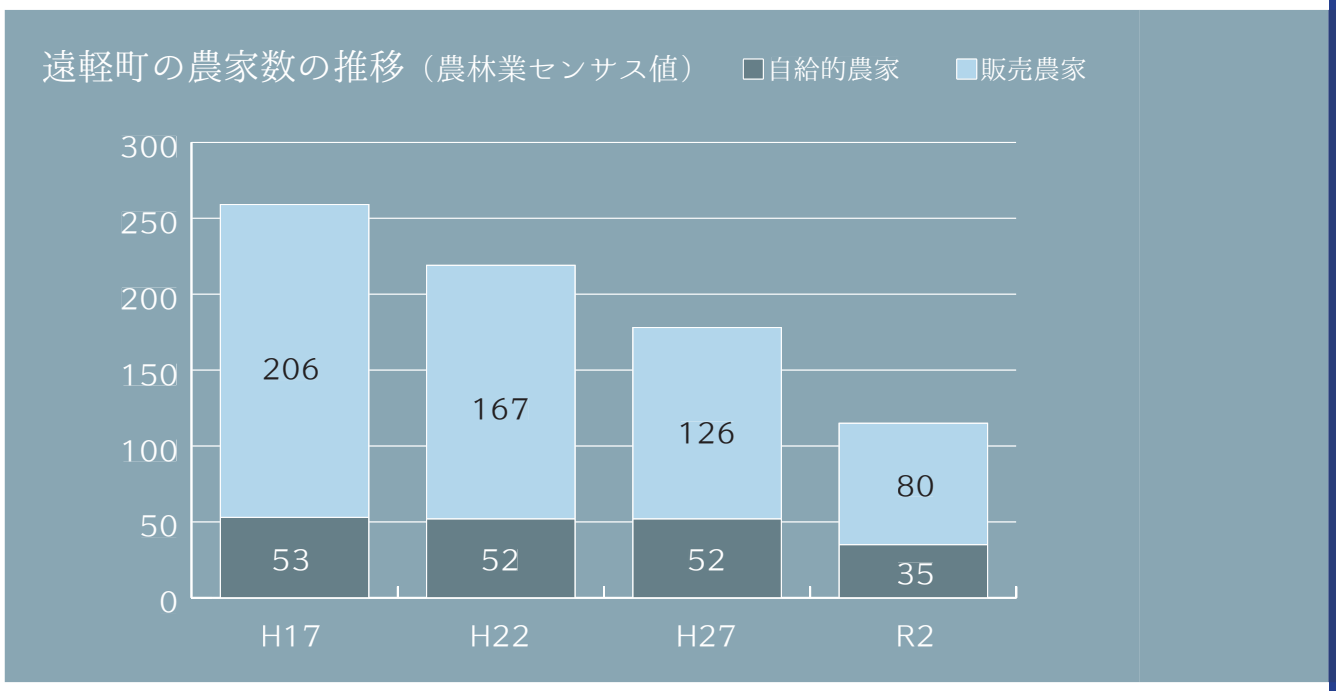
新国 農業生産額が減らないから地域経済は豊かなのかと言ったらそうではなく、やっぱり人がたくさんいて、近くにお店屋さんであったり、学校だったりがあって成り立つわけですから。農業が機械化されてコンパクトになった農家が多くなって、生産額は落ちないけれど人間がいなくなるってことは寂れるってことだよね。すべてが成り立たない。だから昔が良かったっていうのは、人がいて活気があったんだよ。

石川 若い子たちを見てると、昔と違い、ヘルパーなどの制度を活用して子供たちの行事に家族で参加している。機械化のせいなのか、個々の考え方からなのかは分からないが。

新国 今、嫁さん子供に背を向けて成り立つ家庭は少ないと思う。そこを１番に考えないと。我々のころは考えなかったからいろいろ問題もあったけどさ。自分も反省はそこにあるよね。何のために仕事をするのという原点に帰らないとおかしなことになっちゃうよね。

石丸 最近は、地域のことよりも自分を大事にする傾向にある。世の中の傾向ではあるが行き過ぎると、「昔はこうだったよね」と年寄りは思っちゃう。価値観が違う。多様な価値観って農業の良さでもあるんだけどね。

新国 偉そうなことを言ったけど、自分は仕事バカみたいに過ごしてきたんだよね。そして、いまだにそれでいいと思っているんだよ



ね。どちらかというと。家庭だとか、母ちゃんだとか、子供だとかを大事にして仕事は二の次だよっていう考え方にはなんとなくならないんだよ。僕らぐらいの年代になると、やってきたことは間違いだって否定はしたくないのさ。例えば、歯食いしばってなんとかかんとか生き残ろうといろんなことを模索しながら一生懸命働いてきた。「稼ぐに追いつく貧乏なし」って昔の言葉があるが、そんな教えでやってきたことは決して間違っていないと思う。だけども、次の世代にそれをやれって言えない時代になってしまった。じゃないと嫁さんがそんな大変なところに行かないわっていうのが大体のパターンだから。お嫁さんがあの人にところに行ったら私の人生が豊かになるわっていう環境を作ってあげないと。

遠軽の農業の強みと弱み

石川 農家数が減少していく中を生き抜いてきたお二人に、うちの町の農業の強みや弱みなんかについてお話を聞かせてもらえたら。

石丸 お陰様でいろいろな人と付き合わせてもらって思うことは、やっぱり「遠軽って手堅い」です。基本的には堅実です。逆に言うとバカな人がいない。

石川 大きな失敗もないけど大きな成功もないということですかね。

石丸 もともと面積が大きくなくてそういう風にならざるをえなかったってことですよね。

新国 私の住んでいる地域は、土地はあまり良くない。豊かではなかったけど、昔の人たちは離農するのに農地を売らなくてもよかった。農地を手放さなくていいぐらいある意味豊かなんだよね。大きくやれば豊かなのかって言ったらそういうことではなく、今ある条件の中でどう生きるかってこと。そういう大変な中、とんでもないことをやろうと思ってもできなかったから。本当にうちの隣のおじさんは、ずっと馬で畑を耕していたんだけど、畑を１０ｃｍぐらいしか起こさない。でも、ちゃんと農業が成り立っているんだよ。ちゃんと一家を構えて子供たちみんな大きくして学校出してと成り立っていたんだよね。わずか５町の畑で。豆だとかビートだとか、いもとかをちょろっと作って、今みたいに大量に施肥したり、機械化したりしなくても成り立

つ農業っていうのを昔はしていたんだよね。そういう農業でこの地域で生きてこれたんだよね。

石川 あんまりよろしくない土地条件が弱みで、その弱みを克服するための農業をやろうとしたときには堅実にやらざるを得なくて、そうやって今まで切り抜けてきたって感じですかね。

新国 確かにそこに魅力があったかっていうとさ、そうじゃないから結局のところ息子たちは継がなかったんだよね。逆に今になると土地は悪いけど、ある程度いろんなやり方を駆使しながらできるよね。畜産業の人たちは、大々的に大きくなってきたよね。だけど、うちの地域もそうだけど、畑作の人たちは大きくなれなかった。典型的に土地が悪いだけに作るものが限定されるってことがあったよね。それは弱みだよね。

石丸 十勝と同じ土俵で争っても勝てなかったよね。違うところで隙間を縫う感じでやっていくしかなかった。

新国 まさに隙間産業だよね。北海道の農業は、斜網や十勝など広大で真っ平な土地でのってをイメージしやすいけど、それだけがすべてじゃないよね。無いものねだりしても仕方がないわけだからさ、今は持っている身の回りにあるものを利用してどう営農して生活するかってことに尽きると思うんだよ。昔のじいさんのことを恨んでもしょうがないよね。

石川 個人的に思うことは、野菜農家が少なくなった。１０年前は朝市をやっていた時代もあった。

新国 ３０年前は市場や青果屋さんがあって活気があったよね。

石丸 酪農としてみると、遠軽は放牧に向いている土地じゃないんですよ。

石川 ただ、ある程度土地が潤沢にあるので、粗飼料をつくる分には入ってきやすいのかな。

石丸 牧草だけじゃなくて、デントコーンも作れるというメリットがある。高所得はなかなか難しいが、逆に違う面白さを見つけて生活していくには全然遠軽は田舎でちょうどいい。生活基盤もそれになりにあって。

石川 田舎暮らしも楽しめるけど、医療機関もあるし、スーパーもあるし、その他のお店屋さんもそこそこあって。

石丸 圧倒的に自然災害も少ない。地震もそ

んなにないし。もの凄い大儲けしたい農業には向かないけど、生活を楽しむということに向いている。

石川 これからの発展性という部分にも期待できるということですね。

石丸 なんでもできちゃうから、産地化があまり進まなかった。遠軽は長続きしない傾向にあった。

新国 それは生田原町時代もそうだった。合併したから今は同じ遠軽町だけど、何一つとして育たなかった。

石川 昔栽培されていたメロンもいいところまでいって、訓子府から視察が来ていたのに、今では訓子府メロンがね。

石丸 昔からなかなか続かないが、逆にそれだけいろんな可能性があるということなんだと思う。

営農スタイルはさまざまだけど一人ではできないよね

石川 みどり牧場は、インターンをはじめ、いろんなパターンの人たちを受け入れてますよね。テレビCMでも流れているホクレンのパラレルノーカーとか、ああいう子たちはどんな感じですか。

石丸 基本的に来る子って、農業をやるやらないじゃなくて、農業を体験してみたいと思って来ている。凄くまじめに考えている。普通の大学生とかが、生産の現場に行ってみようとか相当考えてないと来ないですよ。

石川 半農半X、ようは農業やりながら何か別な仕事をってどう思いますか。

石丸 それを言うなら、昔から夏は田んぼやって冬はほかでバイトして生活していたんだから。

新国 兼業農家みたいな感じだよね。

石川 そうそう。市役所職員やりながら畑作とかってのも。

新国 先祖代々の土地を守りながら米も作りながらっていうサラリーマンが山ほどいたんだよ。

石丸 昔だったら定職につかないでなんだって言われてるが、今はいろんなところで農業をやりながら生活していいよって価値観が変わってきているから。いろんな仕事をしながら自分の時間でやりたいことをする人がいるわけで、それはそれでありなのかなって思う。

石川 これから少しずつそういう就農の相談

も増えてくるのかなぁ。いろんなケースの対応をしていかなければいけないんだなって。夫婦である必要性とか、女の子１人での就農とかね。

石丸 二人で同じ目標に向かってやっていくこともすごく良いことだし、それぞれ別な目標に向かってやっていくことも良いし、どっちがとは一概に決められないよね。

新国 基本的に夫婦じゃないと受け入れないってスタンスは、凄くハードル上げることになるよね。我々の世代だってさ、父ちゃん農家しながら母ちゃん別な仕事をしてるっていうのも現実的にあるんだからさ。確かに一人で何ができるんだっていう部分もあるんだけど、受け入れるにしても柔軟に対応する方がいいんじゃないかなと思う。

石丸 勘違いしてほしくないのが、長くやっていた人間に言わせると、農業は一人ではできませんよということ。よくマスコミなんかも一人でやっていますなんていうけど、実際は周囲の人がものすごくサポートしているんだよね。そこはちゃんと言ってあげなきゃいけないのかなって気はします。

新国 一人じゃできないよね。

“遠軽”の目指すべきところ

石川 最後に目指すべきところみたいな話を聞こうと思っていたんですけど、今までの話を聞いてお金いっぱいあげられるよとか、制度的にいろいろ整っていますよっていうよりも、なんかハートフルなっていうか、人対人みたいな。

石丸 でもそれを言うとね、それだけじゃ人間食っていけないから。そういう精神論だけじゃやっていけないから、きちんと経営としてやるべきことはやらないといけないっていう。

新国 新規就農者が前職で５００万の所得で働いていたんであれば、とりあえず５００万の所得を得られる農家になるべきだろうなって思う。そのためには、単年度収支で５００万ぐらいあげれるようなプランニングをしてやるしかないよね。で、新規就農者にそれをやれって言ってもできないわけだから、そこは関係機関の責任はすごい重いよ。でもさ、片手ぐらいの所得は天候にもよるけどそんなにハードルの高いもんじゃないじゃん。あとは努力でね。毎年５０万でも１００万で

も伸ばしていけるような経営努力をすべきであってさ。でも、最初食べれるようにプランニングしてあげるのは我々の責任だよね、やっぱり。

石丸 経営継承前の農家が食べていくのと、新規就農者が食べていくのは別もんだよね。経営継承前の農家は生活できるでしょってそれじゃだめだよね。

新国 それを俺にやれって言われたって、全然できないからね。

石丸 若い人であれば、子供もできるし、生活としてまったく別もんなんだよね。そこはやっぱり常に考えてあげなきゃいけないよね。

新国 これからは、経営規模にこだわらず、何らかの方法で生み出せる農業にしてやらねばならないなって気がするな。

石川 新国さんところでも使ってもらっているけど、道の駅なんかはいいアイテムの一つとして。

新国 そうそうそう。

石川 で、一緒にやれる仲間なんていると、ちょっとこれまたやりやすくなるだろうし、そういう楽しみを奥さんも見つけてくれればね。作るのは父ちゃんでもいいけど、売ってみるとかね、ちょっと飾ってみるとか。

新国 お母ちゃん稼いだの全部お母ちゃんのもんだよって言ったら喜んでやるかもよ。頑張れば、結構数字はついてくる。

石丸 女の人は現実的だから。

石川 男よりいいかもしれない。

新国 そのお母ちゃんのためのお金をさ、お父ちゃんがさ、ちょっと貸してって言いたくなるときあるもん。

遠軽に来る人たちに向けて私たちが言えること

石川 今後、新規就農を目指してくるような人たちに向けて一言、っていうか「土は悪いが人は良い」みたいな言葉を。

新国 土は悪くてもさ、こんだけ畜産農家があるってことは宝の山があるってことだよね。肥料も資材も値上がりしていく中で、有機物を使った農業をできるメリットがある。他の地域では、たい肥を入れられない農家がたくさんいるわけですから。

石丸 良いことばかりは言えないよ。遠軽で農業しようと思ったら大変だし、苦労が多いと思う。でも、なんだろう、そういうことがあった方が農業は楽しいと思う。考え応えもある。条件の良いところでやるよりは、ちょっと大変な、工夫しないといけない方が面白いんじゃないかって。

新国 俺もやめようと思ったこといっぱいあるもん。俺は絶対生き残るんだ、頑張るんだってやってきたわけじゃない。いつやめようかなって思いながら今があるんだよね。いろんな迷いもあるし、ブレたりもするし。

石川 遠軽は、完全なる畑作地帯でもないし、牛しか飼えない地区ってわけでもない。そういう意味では本当にごちゃまぜの地区で。

石丸 可能はいっぱいあるよね

新国 あるある。

石川 地域を考えると決して全部が全部メガファームになればいいという考えではないんだろうなと。

石丸 地域にいろんな農家がいないとね。遠軽ってそれなりに、ちょっと都会、ちょっと田舎っていう点があるので、多分農業に関してもそうなんでしょうね。

石川 一大農業地帯でもないし、一大酪農地帯でもないし。

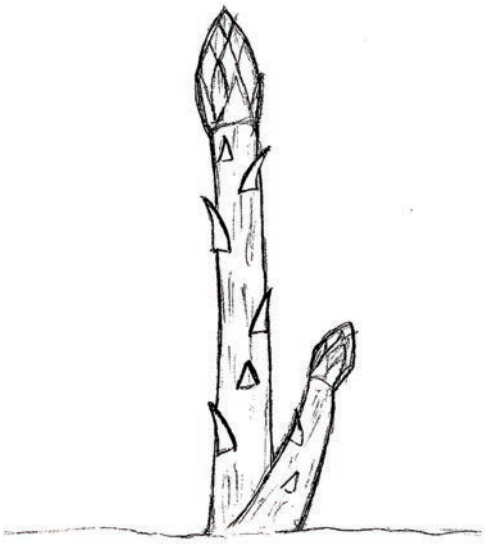
新国 ＪＲも空港も高速道路もさ、交通面でも凄く揃っている。

石丸 それなりに雇用もあるし、学校もある。面白いところだと思いますよ。

石川 まずは来てごらんぐらいの軽いノリがいいのかもしれないですね、遠軽は。

石丸 協議会も新規就農だけじゃなく、ちょっとやってみたい、農業に関心をもってもらう、そんなところから取り組まないとね。

石川 そのきっかけが、この対談が載ったパンフレットになると信じています。ハードルをあげてしまったかな。本日は、貴重なお時間をいただき大変ありがとうございました。



小麦（秋まき小麦）

町内全域で栽培されています。従来､｢ホクシン｣という品種が作付けされてきましたが、現在は多収量で倒伏に強く、うどん用に国内で一番多く使用されている「きたほなみ」が作付けされています。秋に種をまき、一冬越して、夏ごろに刈り取られます。収穫時期には、畑一面を黄金色に染める小麦の絨毯を町内各地で見ることができます。

アスパラガス

遠軽地域と生田原地域で栽培されています。ハウス立茎栽培により育てられたアスパラは「遠軽にょっきーず」というブランドで出荷されています。春夏の２回収穫しており、春芽は味が濃く、夏芽はやわらかい食感が特徴で、煮ても焼いても揚げても美味しい３冠王です。ふるさと納税返礼品の一番人気で、化粧品やソーセージなど町内他業種とのコラボ商品も好評です。

甜菜（てんさい）

遠軽地域、生田原地域、白滝地域で栽培されています。甜菜は、カブのような見た目をしており、別名「砂糖大根」や「ビート」と呼ばれる北海道の特産品で、砂糖の原料として使用されています。生は、あくが強くて食用に向きませんが、動物たちにとってはごちそうであるため、熊などの食害にあうこともしばしばあります。

ブロッコリー

遠軽地域、生田原地域、白滝地域で栽培されています。ＪＡえんゆうの「もっこりーず」と言うブランド名称で昭和の時代から出荷されています。徹底した品質管理を行っており、出荷先から高い信頼を得ている作物です。初めて知る方は、この攻めたネーミングに驚かれることもしばしば。

馬鈴薯（ばれいしょ）（じゃがいも）

主に白滝地域で栽培されています。白滝地域は、標高が高く冷涼な気候で、昼夜の寒暖差も大きいため、ゆっくりと熟成されることにより、甘味とでんぷん質が多くなり、「ホクホク感」を楽しむことができます。収穫されたものの多くは、ポテトチップスやじゃがりこなどの加工原料として出荷されているため、皆さんも白滝産のじゃがいもを知らず知らずのうちに口にしているかもしれません。

青紫蘇（あおしそ）

遠軽地域と生田原地域で栽培されています。この地方では、薄荷の栽培が盛んに行われてきましたが、戦後に薄荷栽培が衰退していく中、合成では再現できない香料として価値があることから青紫蘇の栽培に移行していきました。紫蘇は、蒸留するための乾燥作業が必要で、収穫後に「しまだて」「はさがけ」と呼ばれる重労働があるため、なかなか栽培面積を増やせませんが、しそ油用としては全国でもトップクラスの作付面積を誇ります。

酪農（生乳）

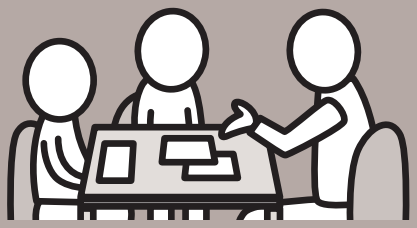
町内の約６割の農家が酪農を営んでいます。乳牛で８，５００頭、肉用牛も合わせると１２，０００頭の牛が飼養されています。生乳の生産に当たり、食の安全・安心が当たり前の時代ですが、オホーツク管内においても安全・安心な生乳生産の意識はとても高く、遠軽町では近隣自治体や関係機関と協力の下、「牛そのものを健康な状態で飼養する」ことを指針に様々な取組が進められています。主な取組としては、町内の酪農家全戸による年２回の牛のワクチン一斉接種を行っているほか、特殊疾病清浄化対策としてＢＶＤウイルス感染症の検査を実施するなどして、安全・安心な生乳生産及び個体販売を目指しています。そのような取組が行われていることもあり、町内では１戸当たりの出荷乳量が高く、乳質が非常に優れた酪農家が多く存在しています。また、搾りたての生乳を使って乳製品の加工を行っている農家もいます。このうち、北海道家庭学校では、脂肪分が黄色味を強く帯びている特徴的な生乳を使い、バターやチーズなどを昔ながらの製法で一つ一つ丁寧に製造しています。大量生産では味わえない手作りの味とあって、生産が追い付かないときもあるほど人気の製品となっています。

遠軽町で新規就農する場合の主な流れは次のとおり。

遠軽町で新規就農する

とにもかくにも気になったら相談ですよ

農業をやってみたいと思っていても、空いている農地や受け入れてくれる農業者がいないと就農することはできません。
遠軽町で農業を経営したい、体験してみたいなど、興味のある方は、まず遠軽町農業担い手対策協議会にご相談ください。経営移譲希望農業者とのマッチング、従業員募集情報の提供、体験実習受入農家の紹介など、ニーズに沿った対応をします。



百聞は一見にしかず。まずは体験してください

遠軽の農家や農業生産法人で、農業体験をしてみてはいかがでしょうか。遠軽町の暮らしや雰囲気、農作業などを実際に肌で感じることができます。自分のライフスタイルにあうかどうかはとても重要なことです。

経営継承を目的とする方は継承元で実践的な農業研修

経営移譲を希望する農業者とのマッチングが成立した方は、町内において１年以上（２年標準）の農業研修により、営農技術、経営管理、気候、土地条件などについて習得するとともに、地域との信頼関係を構築していただきます。
研修を進めていく中で、自分の経営内容を固めていくとともに、農地や施設の譲渡、各種制度の手続等も進めていきます。

晴れて新規就農

- 町内の農業者に雇用就農
- 町内の農業者から独立就農
- 町内の農業者から経営継承による新規就農

ローリスク、ミドルリターン！とにかく「農地」が安い

遠軽町は、道内と比較しても農地は比較的安い部類に入ります。資産価値としてみたとき魅力は低くなりますが、新規就農する場合はとても有利となります。畑作の話になりますが、真四角な形で土地改良された農地と比較すると、土地の価格は何倍も違いますが、収量が何倍も変わるかといったら、せいぜい２倍がいいところです。低投資でそれなりの収益をあげるのに遠軽町はまさにうってつけの場所です。土地の改良や新たな栽培技術の導入など、あなたの工夫次第で、収益を上げていくことも夢ではありません。

畑作であれば、大規模農業が可能ですし、小規模農業でも設備投資に余裕ができます。酪農だと、自給飼料を確保できる強みがあります。「農地が安い」をあなたの経営で大きなメリットとしてみませんか。

受入体制や就農支援に力を入れてます

農業者の減少が進み、それに伴い１戸当たりの経営面積も増え続け、これ以上農地を抱えられない農家が増えてきている遠軽町では、新しい血を受け入れるために担い手の施策を推進しています。

平成２９年には、町と農協の補助を得ながら、農業者と関係機関が手を取り合い「遠軽町農業担い手対策協議会」を設立しています。新規就農をはじめ、農業担い手に関する総合的な窓口として活動を展開していますので、ぜひ気軽にお問い合わせください。

また、遠軽町では、「遠軽で農業を始めてみたい」という方が遠軽を良く知り、末永く生活していけるように、国や北海道の制度のほか、町単独の施策により農業研修から経営開始直後に対して支援しています。

遠軽町の単独施策

１週間以上の体験実習：１日当たり１千円を助成（６０日を限度）
１年以上の農業研修：月額１万円を助成（２年を限度）
経営継承を目的とした農業研修：月額５万円を助成
町内で新たに自立して農業経営を開始した方：
・新規就農奨励金 ２００万円
・農地賃借料助成金 年間賃料の１／２の額（５年間、単年度４０万円限度）
大型免許等の資格取得：免許取得に係る教習料金の半額（２０万円上限）
※令和３年４月時点の情報のため、今後変更される可能性があります。

田舎だけど
意外と生活に不便はない

遠軽町を一言でいうならほどよい田舎。コンビニがないとか、下水道がないとかいう地域もありますが、町内には医療機関も充実していますし、一通りの生活必需品を買えるなど、お店も充実しています。また、これまで光回線の通っていない地域もありましたが、令和３年度において居住地域１００％で光回線が使えるようになります。

車があれば日常生活の足として便利な生活を送ることができますが、なくても公共交通機関やタクシーを利用したり、生活用品の宅配サービスやネット購入したりすれば、あまり不便を感じずに田舎生活ができる環境が遠軽町にはあります。

また、空き家も増えてきていることから、タイミングが合えば安く住宅を購入することもできます。DIY で理想の古民家に改修するなんて楽しみもあります。大自然に囲まれた遠軽町で、ゆとりある生活を送ってみてはいかがでしょうか。

発　行：令和３年（2021 年４月）
制　作：遠軽町農業担い手対策協議会
問合せ：北海道紋別郡遠軽町１条通北３丁目１番地１
遠軽町経済部農政林務課内
ＴＥＬ：0158-42-4816

予約のいらない
ふらっと立ち寄る
気軽に立ち寄る
そんな「まちなかスペース」

大通りで「まちなかスペース」解放中！

待ち合わせ　時間つぶし　オンラインゲーム　パソコン　休憩　商談

Wi-Fi無料

欲しかった「まちなかスペース」

友だち同士でオンラインゲームをしたり、約束までの時間つぶしやヒマつぶし、。デートやお友だちとのおしゃべりタイム。
学校帰りにお友だちと宿題したり、テスト勉強もできちゃう。
「まちなかスペース」は使い方いろいろの便利なスペースです。

高速Wi-Fi無料でドリンク付き

おひとり様1時間￥550でWi-Fi無料＆ドリンク付き。
高速Wi-Fiが無料なので、スマホがサクサク！
気分転換にここでPC作業もおすすめです。

使ってわかる6つの「やすい」

check

- ☐ 1. まちなか立地で使いやすい
- ☐ 2. 広い駐車場完備で使いやすい
- ☐ 3. 容量1G買うよりWi-Fi無料で使いやすい
- ☐ 4. ドリンク付きで￥550だから使いやすい
- ☐ 5. 20時まで開いてるから遊びやすい※
- ☐ 6. 予約要らずで入りやすい

スマホもゲームもサクサク動く！

リモートワークやオンライン会議も！

LINE公式アカウント　@Ms60029465　MS.ENGARU

SNSでお得な情報や面白いネタを配信するよ！チェックしてね！

ホッと一息

公式サイト

TEL:0158-46-7307　**電話受付 9:00～17:00**

(株)M's企画　(蕎麦屋「奏」様のお隣ビル)
〒099-0416　遠軽町大通南2丁目5番地19
FAX:0158-46-7308

【Mail】ms.engaru@sky.plala.or.jp　【Web】https://ms-engaru.com/

おひとり様1時間￥550
高速Wi-Fi・ドリンク1本付き
※17時以降のご利用は必ずお早めにお電話ください。